

2021年3月期第2四半期決算説明および 中期経営戦略の方向性について

2020年10月27日

日立建機株式会社

執行役 社長兼 CEO 平野 耕太郎

執行役 営業本部長 先崎 正文

執行役 財務本部長 兼CFO 塩嶋 慶一郎



本日はお忙しい中、弊社の決算説明会にご参加いただき、ありがとうございます。

1. 地域別市場環境と見通しについて

執行役 営業本部長
先崎 正文

地域別市場環境と見通しについて、先崎よりご説明致します。

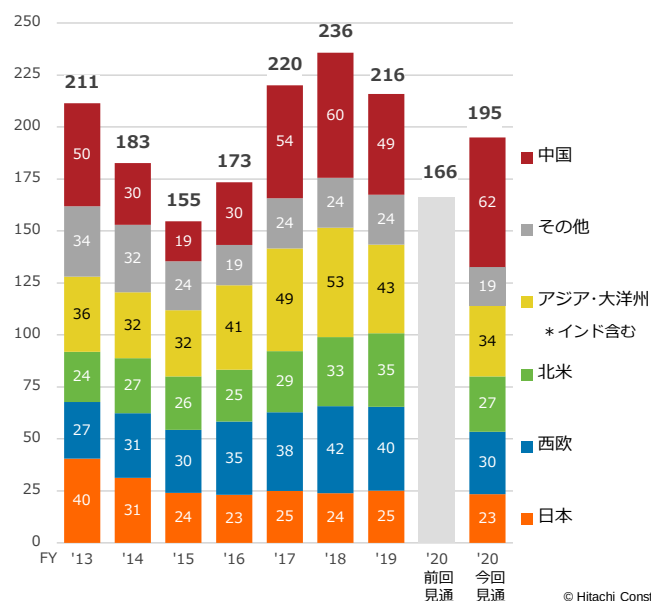
油圧ショベル世界需要推移

HITACHI

Reliable solutions

新興国比率：20年度 59%（前年比+6%）

※新興国：中国、アジア・大洋州、その他



地域別需要対前年増減

※当社推定 中国国産メーカ含まず
※複写・転用はご遠慮下さい

	'19	'20
合計	-8%	-10%
中国	-19%	+29%
ロシア・CIS	+2%	-31%
東欧	-12%	-29%
アフリカ	+10%	-11%
中東	+13%	-21%
中南米	+3%	-25%
その他	-19%	-22%
アジア	-17%	-23%
インド	-22%	-9%
オセアニア	-18%	-21%
アジア・大洋州	+5%	-24%
北米	-4%	-25%
西欧	+5%	-7%
日本		

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2020. All rights reserved. 3

油圧ショベルの世界需要推移です。

2020年度の需要見通しは、前回発表の16万6千台、前年比23%減に対し、19万5千台、前年比10%減へ想定台数を上方修正します。

地域別に見ますと、特に中国の回復が想定以上に早く前年比29%増加を想定します。

主要因として春節後需要の後ろ倒しや政府の経済政策・景気下支えによるインフラ関連への投資が挙げられ、全世界需要を大きく牽引しています。

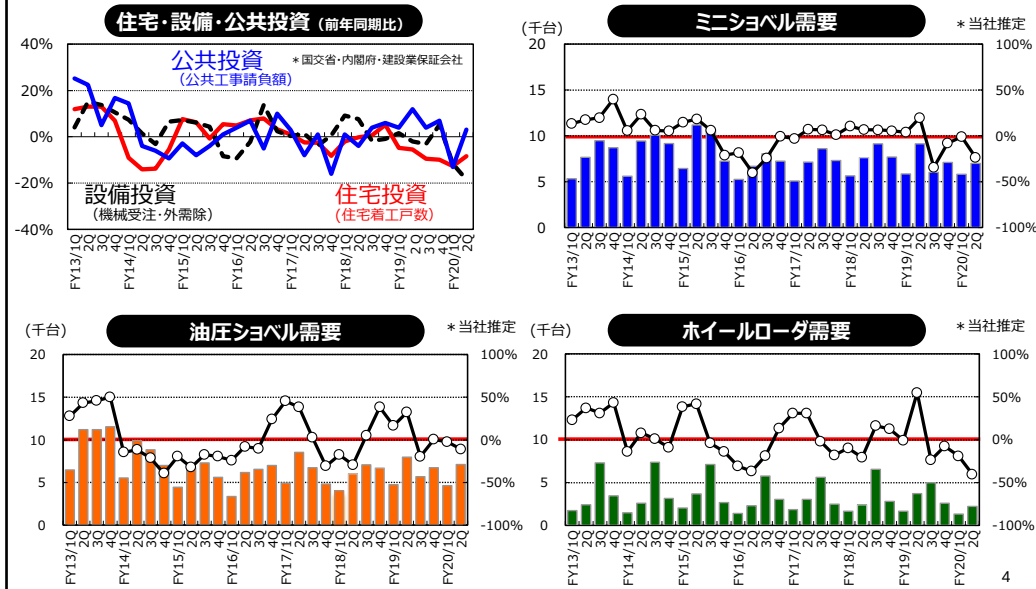
日本市場においては、新型コロナウイルスの影響を大きく受けることなく需要が推移していることから前年比7%減少、ロックダウンはしたものの需要に影響が少ないと想定されるオセアニアは9%減少、その他地域においては経済活動が大きく停滞した影響を受けたことによりおよそ25%から30%程度の減少を見通しております。

インドネシアなどの一部地域を除いて足元では回復のペースが早まっている状況ですが、全体の需要台数としては前年度レベルまで回復しないと考えております。

この様な状況に対し、引き続き新型コロナウイルスの影響とそれに伴う各国の経済活動状況を把握し、市場環境の変化にいち早く対応できるよう取り組んでまいります。

続いて、次ページ以降で地域毎の第2四半期までの結果や見通しをご説明致します。

- 住宅投資、設備投資は大きく減少。公共投資は微増
- 需要は減少：前年同期比 油圧 $\Delta 11\%$ (累計 $\Delta 8\%$)、ミニ $\Delta 24\%$ 、WL $\Delta 40\%$

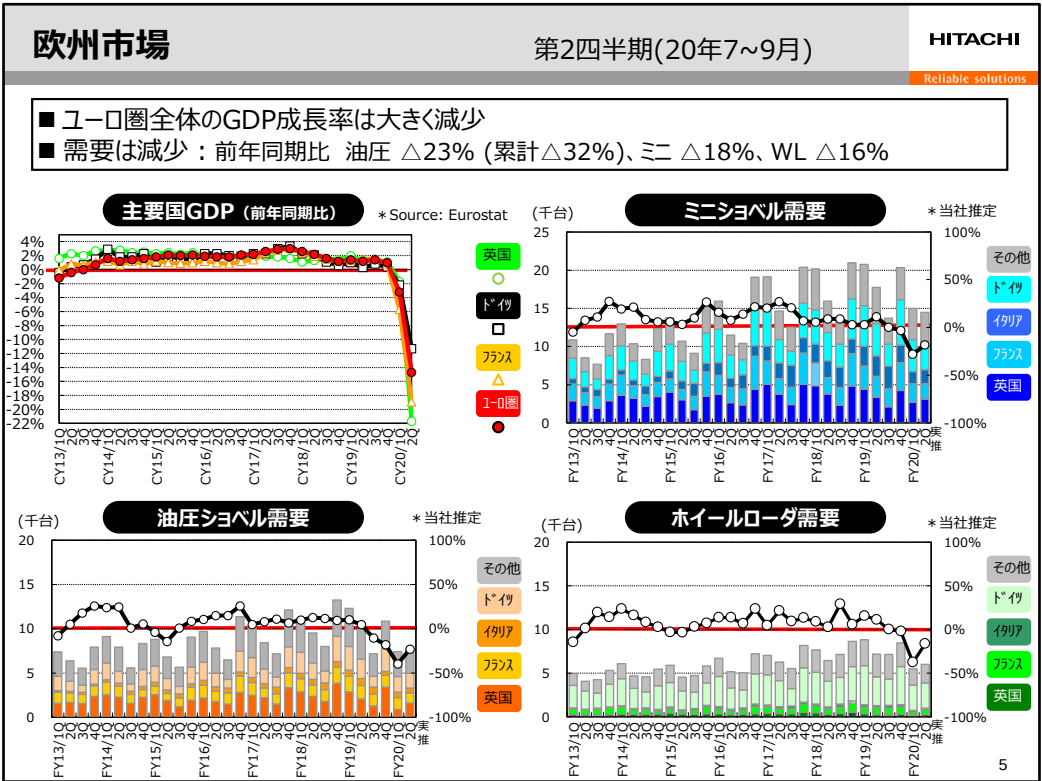


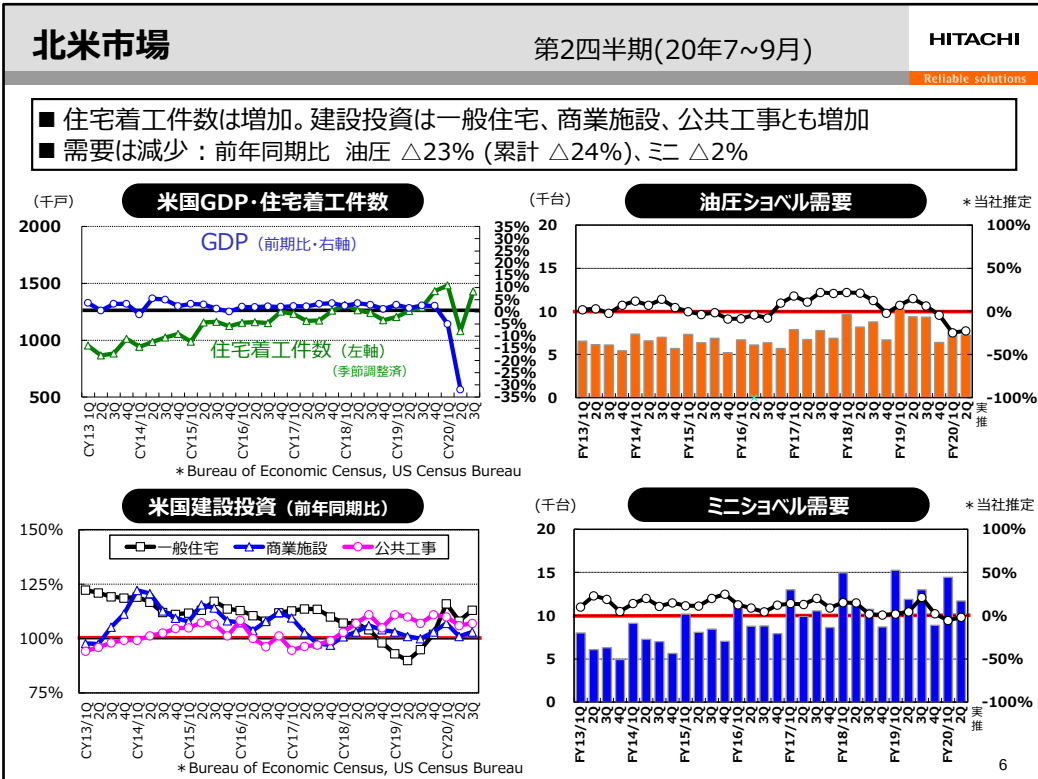
日本市場です。

左上、第2四半期の住宅および設備投資は前期に続き大きく前年割れですが、公共投資は3%のプラスに転じました。

需要においては、左下の油圧ショベルは前年同期比11%減、右上のミニショベルは24%減、右下のホイールローダ40%減と大きく減少しました。

特にミニショベルとホイールローダにおいては、昨年の消費税増税前の第2四半期に需要増があった為、今回はその反動で大きな落ち込みとなっている、と考えております。





北米市場です。

左上のグラフ、住宅着工件数は前年同期比で増加しましたが、GDPは大きく減少しました。

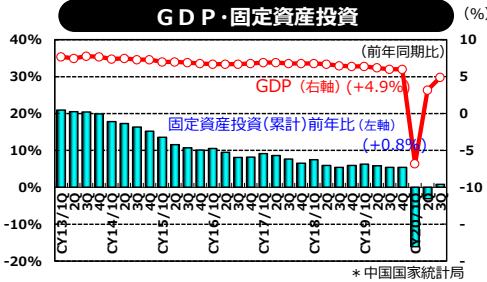
左下の建設投資は、引き続き前年同期比で増加して推移しております。

右上、第2四半期の油圧ショベル需要は新型コロナウイルスの影響により、前年同期比で23%の減少となっていますが、

右下ミニショベルについては、堅調な住宅建設投資に伴い、前年とほぼ同水準となりました。

継続して建設投資などの市況と需要の関連を注視してまいります。

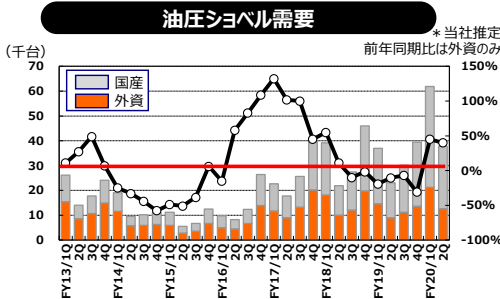
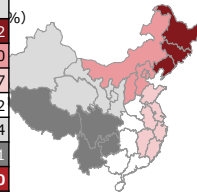
- GDP成長率は+4.9%
- 油圧需要は継続して増加（前年同期比+40%（累計+43%）、外資のみ）



地域別油圧ショベル四半期別前年比

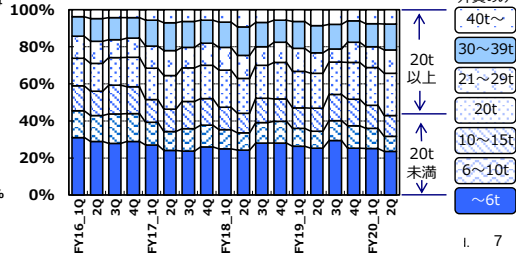
* 外資のみ
* 当社推定

	FY19	3Q	4Q	1Q	2Q
東北	+65	+9	+150	+112	
華北	-21	-48	+37	+40	
華東	-1	-24	+59	+57	
華中南	-8	-32	+42	+22	
西北	+7	-41	+29	+64	
西南	-16	-32	+28	+21	
中国全体	-7	-31	+45	+40	



ミニ・油圧ショベル クラス別需要構成比

* 当社推定
外資のみ



中国市場です。

7月から9月期のGDP成長率はプラス4.9%、固定資産投資は前期からさらに回復し、前年同期比ではプラス0.8%と、三期ぶりにプラスに転じました。

油圧ショベルの需要については、第2四半期の国産機含めた全需要で前年同期比64%の増加です。

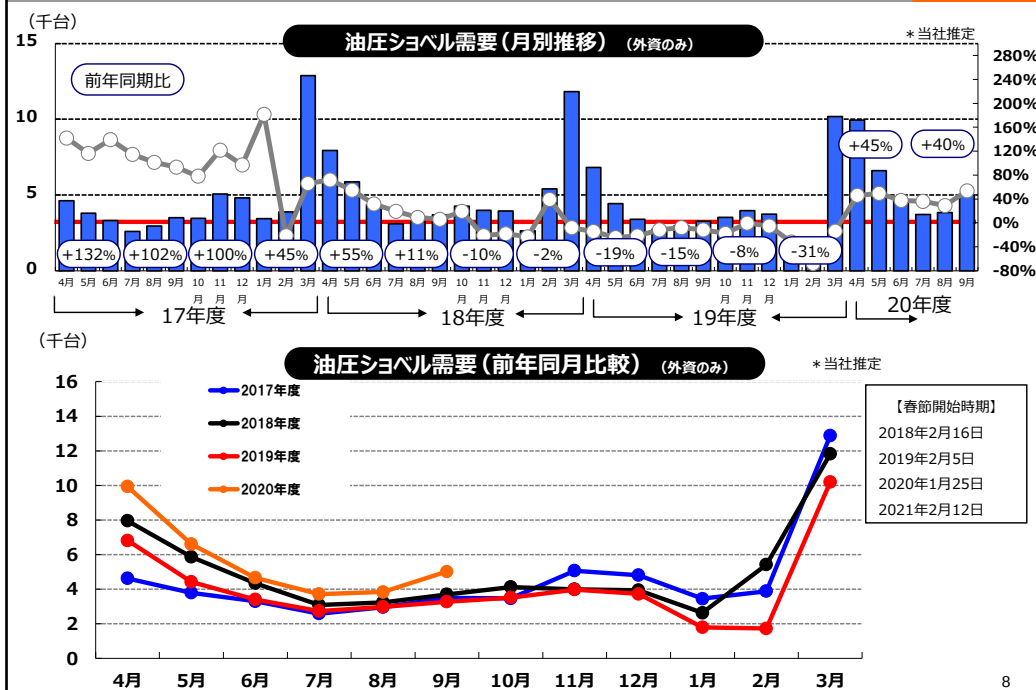
内訳として国産は80%の増加、外資は40%の増加となりました。

地域別の需要やクラス別需要構成比は、資料の右側をご参照下さい。

補足：中国市場

HITACHI

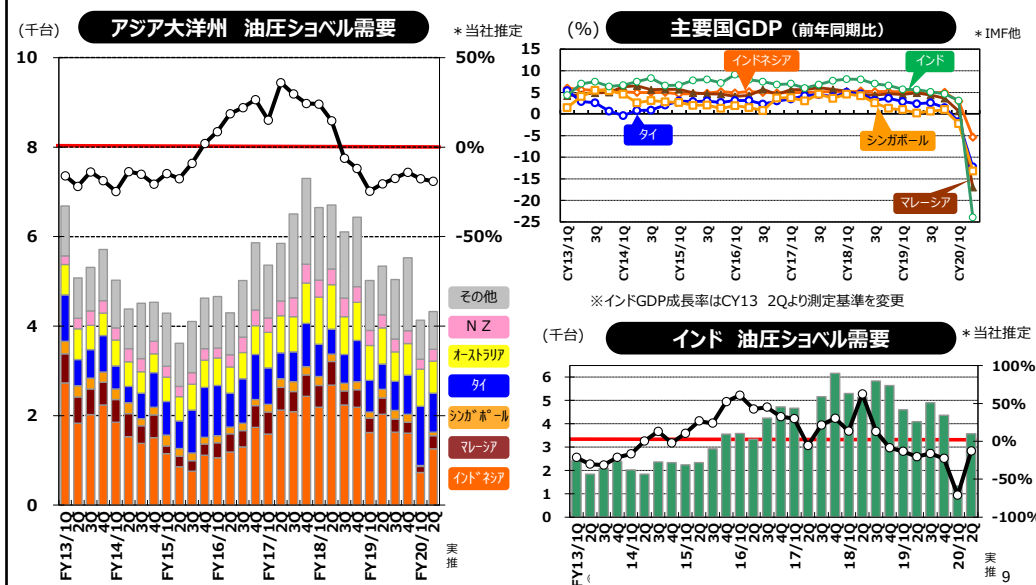
Reliable solutions



上側グラフの外資のみの月別油圧ショベル需要推移において、20年度第2四半期で前年同期比40%の増加となりました。

4月以降、需要が前年を大きく上回っており、新型コロナウイルスの影響から想定より早期に回復している状況です。

- アジア大洋州の油圧需要は全体では前年同期比 $\Delta 19\%$ (累計 $\Delta 18\%$)
- インドの油圧需要は前年同期比 $\Delta 13\%$ (累計 $\Delta 44\%$)



アジア大洋州、インド市場です。

左側グラフの、アジア・大洋州の油圧ショベルの需要につきましては、全体で前年同期比19%減少となりました。

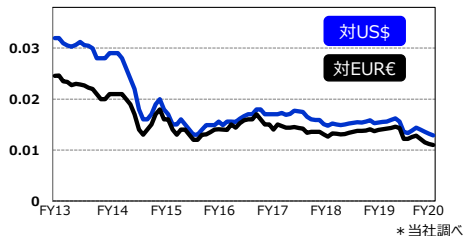
国別では、タイは、政府の補助金政策により、需要が昨年に対して増加傾向となっております。一方でインドネシアでは、前期からの回復は見られますが、依然新型コロナウイルスの影響に加え、コモディティ価格の低迷により前年同期比では減少となっています。

国毎に回復状況が異なるため、引き続き国別状況を捉え対応していきます。

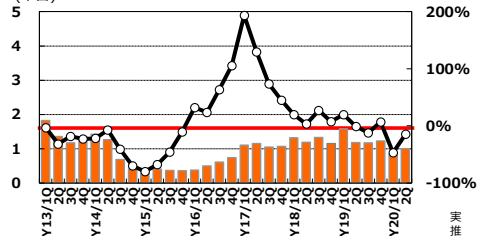
右下グラフのインドの油圧ショベル需要は、ロックダウン解除により経済活動が徐々に再開し、前年同期比13%減少と前期から回復傾向にあります。

- ロシアの油圧需要は前年同期比 $\Delta 15\%$ (累計 $\Delta 33\%$)
- 中東の油圧需要は前年同期比 $\pm 0\%$ (累計 $\Delta 3\%$)

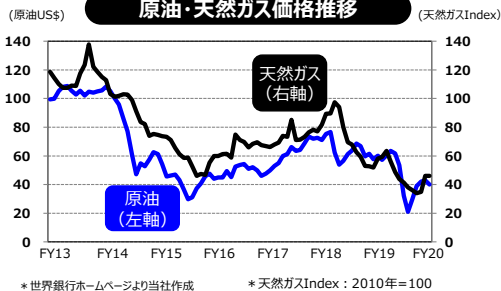
ルーブル為替推移



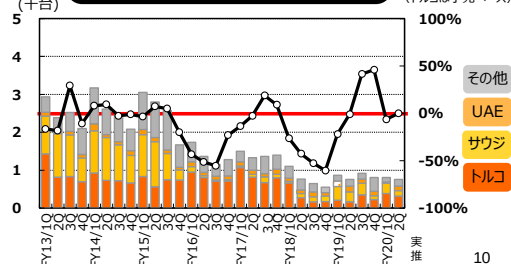
ロシア 油圧ショベル需要



原油・天然ガス価格推移



中東 油圧ショベル需要



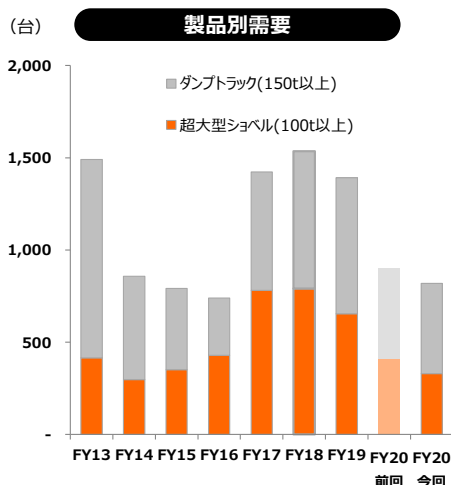
ロシア中東市場です。

右上グラフの、ロシアの油圧ショベルの需要は、各プロジェクト関係の遅延や原油価格が低水準で推移している影響等もあり、前年同期比15%減少です。

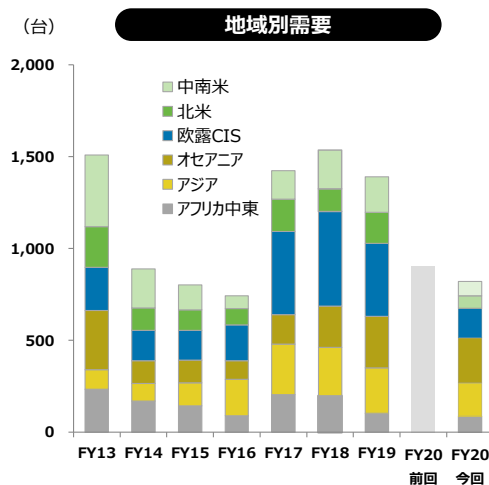
右下グラフの、中東の油圧ショベルの需要も、前年同期から増減はないものの、需要自体は引き続き低いレベルで推移しております。

- 原油、一般炭価格低迷によりインドネシア、ロシアでの中小規模鉱山・コントラクタ向け需要が減少
- 20年度のマイニング需要見通しは前年比△40%へ下方修正（前回△35%）

超大型油圧ショベル（100t以上）、ダンプトラック（150t以上）



※当社調べ



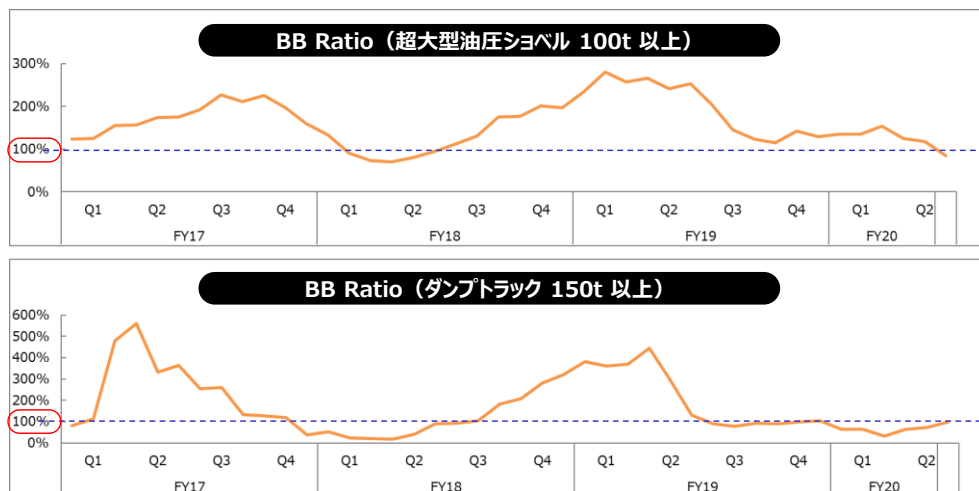
© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2020. All rights reserved. 11

マイニングについてご説明致します。

新型コロナウイルスからの世界経済回復遅れに加え、代替燃料への転換加速により原油、一般炭価格が下落し、インドネシア、ロシア等の石炭産出国での中小規模鉱山、コントラクタ向け需要が減少しています。

大手鉱山各社の設備投資抑制方針は依然継続しており、マイニング需要全体が減少することを想定しています。

結果、20年度通期のマイニング需要は、前年比▲35%減少の前回見通しから▲40%減少と見通しを変更します。



※Book-to-Bill(BB)Ratio = Booking(受注額)/ Billing(出荷額)
当社単独の受注・出荷額の6ヶ月平均

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2020. All rights reserved. 12

BBレシオです。

超大型ショベルは現地在庫調整を進めたため、同期間での単独での新規受注が減少し、100%を下回りました。Q3は現地在庫補充、新規受注含め100%以上を維持する見通しです。

ダンプトラックは金鉱山顧客からの受注があり100%を維持しました。

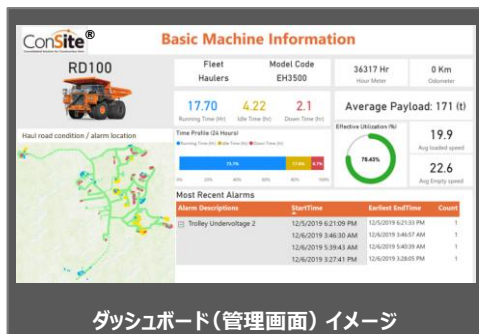
トピック：鉱山全体の経営課題を解決するデジタルソリューション

HITACHI

Reliable solutions

鉱山機械を遠隔監視するConSite® MineをWenco社と共同開発、2021年中に発売開始

- IoTとAI、応力解析技術を活用し、**ブームとアームの亀裂予兆**を可視化
- オペレータの**運転操作データ**や**燃料消費量**を分析
- 安全性と生産性の向上、ライフサイクルコストの低減に貢献



クリサリックス・ベンチャー・キャピタルのファンドに出資

- ロボティクスやIoT、AIなど、最新技術を有するスタートアップとの連携を加速
- 鉱山全体のオペレーション効率化に向けてオープンイノベーションを強化

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2020. All rights reserved. 13

ここからはトピックです。

近年、鉱山においては、機械の高性能化だけでなく、鉱山全体の経営課題を解決するソリューションのニーズが高まっています。

こうしたニーズにお応えする、弊社の最近の動きを2つご紹介します。

ひとつめは、「ConSite Mine（コンサイト・マイン）」の開発です。

カナダのグループ会社Wenco社と共同開発したもので、IoTとAIを活用し、鉱山機械を遠隔監視します。

AIと応力解析技術を用いることで、超大型油圧ショベルのブームやアームの亀裂の予兆を可視化したり、オペレータの運転操作データや燃料消費量を分析するなど、安全性と生産性の向上、ライフサイクルコストの低減に貢献します。

ふたつめは、ベンチャーキャピタルのファンドへの出資です。

ベンチャーキャピタルのクリサリックスが有する、マイニング分野での豊富なネットワークを活用し、ロボティクスやIoT、AIなど、鉱山向けの最新技術を持つ、スタートアップとのオープンイノベーションを強化いたします。

トピック：市場ニーズを反映した製品展開

HITACHI

Reliable solutions

中国ミニショベル市場向け土木専用機

2020年10月から発売開始

- テストマーケティングで得た個人チャーター業者のニーズを反映
- 都市土木に最適な仕様・構造と、高いコストパフォーマンスを実現



超大型油圧ショベルEX2000-7

2021年10月から発売

- 油圧回路を刷新して、作業量を維持しながら燃料消費量を最大19%低減
- ConSite® Mineをはじめ、遠隔操作や運転支援システム、自律運転機能など将来にわたり鉱山現場を支える機能拡張にも対応



© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2020. All rights reserved. 14

次に、刻々と変化する市場ニーズを反映した製品展開について、2点ご紹介します。

2020年10月より、中国市場向けの土木専用機 ZX60C-5A を発売いたしました。

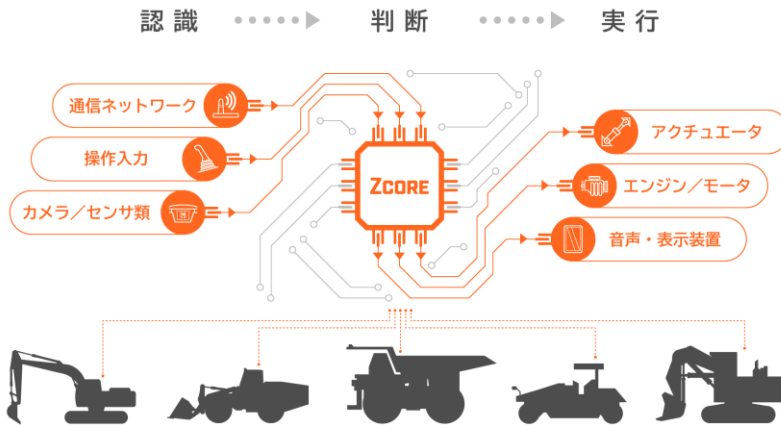
事前のテストマーケティングをもとに、中国市場で増加傾向にある個人チャーター業のお客さまのニーズを反映し、都市土木に最適な仕様・構造と、高いコストパフォーマンスを実現しています。

また、マイニング事業では、超大型油圧ショベル EX2000-7 を2021年10月に発売予定です。

油圧回路を刷新して、作業量を維持しながら燃料消費量を最大19%低減しています。さらに、先ほどご紹介したConSite Mineをはじめ、遠隔操作や運転支援システム、さらには自律運転機能など、将来にわたり鉱山現場を支える機能拡張にも対応してまいります。

自律型建設機械向けシステムプラットフォーム ZCORE® を開発

- ・オペレータが行う**認識・判断・実行**を機械システムが行うプラットフォーム
- ・**機能拡張とカスタマイズ**が容易、ユーザーニーズに迅速に対応
- ・製品種類や大きさを選ばず、各種の当社建設機械へ適用が可能



© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2020. All rights reserved. 15

8月に、自律型建設機械のシステムプラットフォーム「ZCORE」(ズィーコア)を開発しました。

ZCOREは、「人と機械が協調する」ことで、安全性と生産性の向上を図る「協調安全」を実現するためのもので、施工現場でオペレータが行っている「認識・判断・実行」を、機械システムが行えるようにしたものです。

ZCOREは、当社が扱う建設機械のすべてに適用が可能で、ZCOREを用いることで、当社は迅速に自律型の建設機械を開発することができ、また、お客さまのニーズに応じて、機能拡張とカスタマイズを容易に行うことができます。

以上で説明を終わります。ありがとうございました。

2. 2021年3月期第2四半期 決算説明

執行役 財務本部長 兼CFO
塩嶋 慶一郎

続きまして、塩嶋でございます。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

連結決算の概要

HITACHI

Reliable solutions

当第2四半期におけるCOVID-19の影響や為替円高影響△96億円により、売上収益は前年同期比25%減収、調整後営業利益は76%減益。

(単位：億円)				
	20年度 第2Q累計	19年度 第2Q累計	前年同期比 増減率	
売上収益	3,609	4,806	△25%	
調整後営業利益 *1	(3.0%) 109	(9.4%) 450	△76%	
営業利益	(2.4%) 85	(9.0%) 433	△80%	
税引前四半期利益	(1.3%) 48	(8.6%) 411	△88%	
親会社株主に帰属する 四半期利益	(0.1%) 2	(5.2%) 252	△99%	
EBIT *2	(1.8%) 65	(9.0%) 434	△85%	
為 替	アメリカドル	107.0	108.6	△1.6
	ユーロ	121.8	121.4	0.4
	中国元	15.2	15.8	△0.5
	オーストラリアドル	73.3	75.2	△2.0
1株当たり配当金 *3	10円	36円	△26円	

*1 [調整後営業利益]は、連結損益計算書に表示している営業利益からその他の収益及びその他の費用を除いた日立グループ統一の利益指標です。

*2 [EBIT]は、税引前当期利益から、受取利息の額を減算し、支払利息の額を加算して算出した指標です。(EBIT=Earnings before interests and taxes)

*3 [1株当たり配当金]は、連結業績に連動した剰余金の配当を原則として、中間と期末の2回に分けて同一年度に2度実施する方針であり、

連結配当性向30%程度、もしくはそれ以上をめざします。

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2020. All rights reserved. 17

20年度第2四半期 累計期間の売上収益は、新型コロナ、為替円高の影響が大きく、前年同期比25%減の3,609億円、

調整後営業利益は、前年同期比76%減の109億円で、利益率3.0%、
営業利益は85億円で利益率2.4%でありました。

親会社株主帰属の当期利益は、前年同期比99%減の2億円でありました。

なお、中間配当金につきましては、本日の弊社取締役会で、1株当たり10円と決議致しました。

また、20年度第2四半期 累計期間の為替レートは前年同期比で、
米ドルが1.6円の円高、ユーロは0.4円の円安、
元は0.5円、オーストラリアドルは2.0円の円高でした。

連結地域別売上収益

HITACHI

Reliable solutions

中東を除き各地域で前年同期比減収となり、連結合計では△1,197億円の大減収。

(単位：億円)

	20年度 第2Q累計		19年度 第2Q累計		前年同期比	
					金額	増減率
日本	911	25%	999	21%	△ 89	△9%
アジア	213	6%	409	9%	△ 195	△48%
インド	160	4%	246	5%	△ 86	△35%
オセアニア	694	19%	763	16%	△ 69	△9%
欧州	340	9%	558	12%	△ 218	△39%
北米	477	13%	921	19%	△ 445	△48%
中南米	52	1%	72	2%	△ 21	△29%
ロシアCIS	99	3%	180	4%	△ 81	△45%
中東	86	2%	39	1%	48	124%
アフリカ	155	4%	188	4%	△ 33	△18%
中国	423	12%	431	9%	△ 8	△2%
合計	3,609	100%	4,806	100%	△ 1,197	△25%
海外売上収益比率	75%		79%			

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2020. All rights reserved. 18

中東を除き、全ての地域で前年同期 減収となりました。

特にアジア、欧州、北米で、新型コロナの影響が大きく、円高影響も重なり、大幅な減収となりました。

なお、中国に関しましては、前年同期比で8億円の減収となりましたが、為替影響を除きますと3億円の増収でありました。

日本も、新型コロナの影響を受けたものの、災害復旧工事などによる需要増加で911億円と、前年同期比89億円・9%の減収でした。

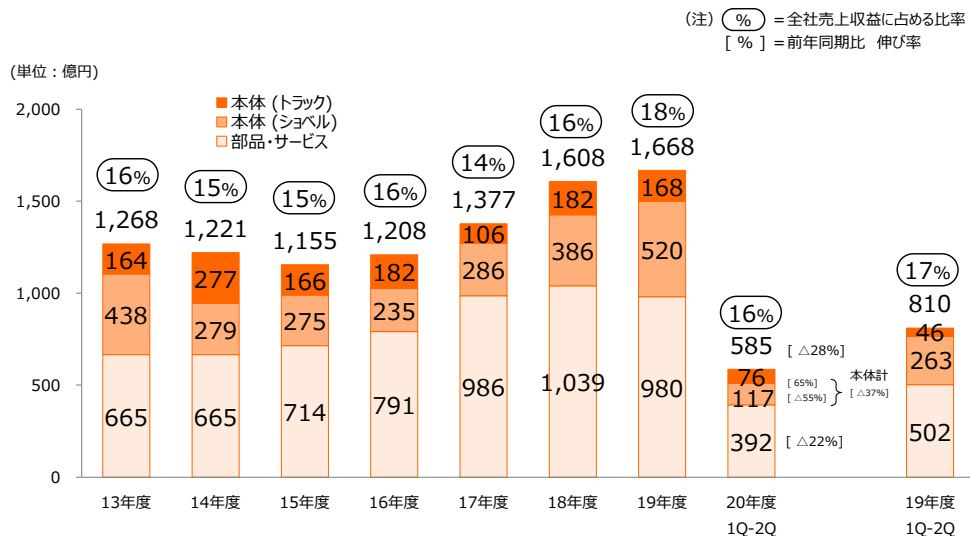
結果、海外売上収益比率は、前年同期比4ポイント減の75%となりました。

マイニング売上収益推移

HITACHI

Reliable solutions

当第2四半期は、為替円高影響△41億円もあり、前年同期比28%減の585億円。



© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2020. All rights reserved. 19

当20年度第2四半期 累計期間のマイニング売上収益は、右側から2本目の棒グラフに示した通りに585億円と、為替円高影響もあり、前年同期比28%の減収でした。

本体売上が37%の減収で、トラックについては65%と大幅増加した一方、ショベルは同累計期間の納入案件が少なく55%の減収でした。

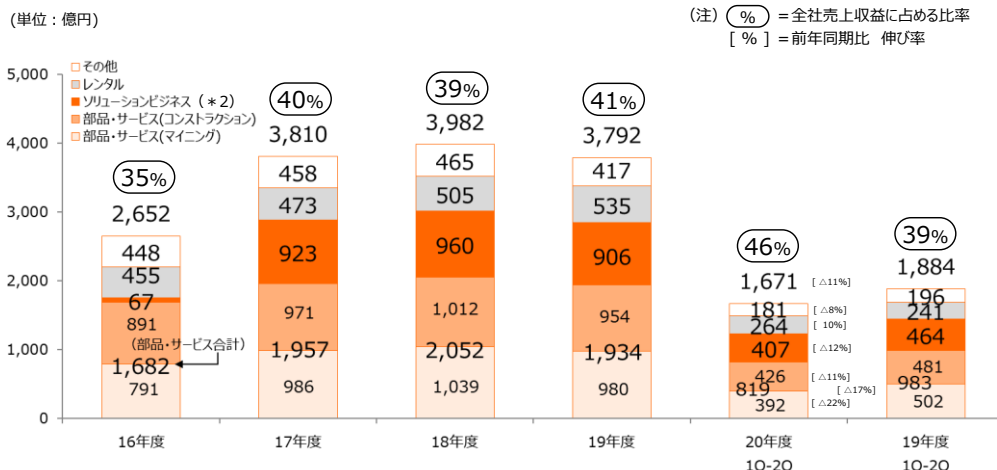
また、マイニング向け部品サービスも、前年同期比22%の減収となりました。

バリューチェーン*1 売上収益推移

HITACHI

Reliable solutions

当第2四半期は、レンタル事業が前年同期比10%増加となったが、為替円高影響△49億円もあり、合計では前年同期比11%減収の1,671億円。



* 1 バリューチェーン：新車販売以外の事業である部品・サービス、ソリューションビジネス、レンタル等の事業合計

* 2 ソリューションビジネス：建設機械ビジネスセグメントに含まれないマイニング設備及び機械のアフターセールスにおける部品開発、製造、販売及びサービスソリューションの提供

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2020. All rights reserved. 20

右から二番目の棒グラフをご覧ください。

当四半期 累計期間のバリューチェーン売上収益は、ご覧の通りに、前年同期比11%減の1,671億円でした。

為替円高影響を2%相当の減収要因と分析しており、現地通貨ベースでは前年同期比で9%の減収でした。

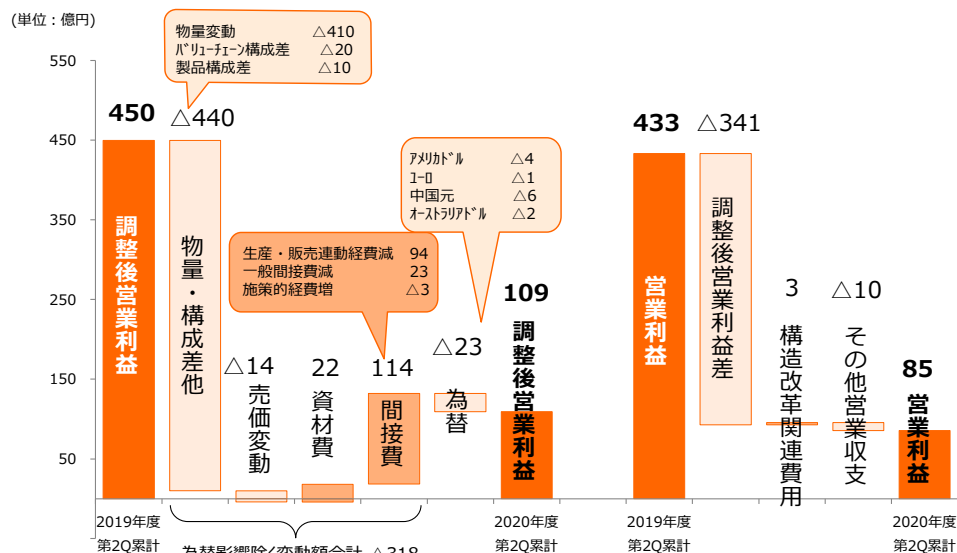
棒グラフの上段から2段目、グレー色のレンタル事業は、これまでの施策効果により、前年同期比で10%の増収となりました。

連結損益変動要因

HITACHI

Reliable solutions

調整後営業利益は、COVID-19影響含め物量・構成差減、売価ダウン及び為替円高影響等により、間接費低減及び資材費低減はあるも前年同期比で341億円の減益。



© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2020. All rights reserved. 21

調整後営業利益が、前年同期比341億円の減益を余儀なくされた要因をご説明いたします。

新型コロナの影響は引き続き大きく、全世界で深刻な需要減退に見舞われこれまでご説明致しました通り、大幅な減収を余儀なくされたことから、物量・構成差で440億円もの減益要因となりました。

加えて、主に中国での販売価格引き下げによる、売価変動14億円の減益影響もありましたが、一方で国内、並びにオーストラリアにおける資材費改善効果 22億円、並びに、大幅減収に対応して、生産・販売連動経費を主体に114億円もの間接費低減を図りました。

為替円高影響マイナス23億円の結果、調整後営業利益は、前年同期比341億 減益の109億円となりました。

その他営業収支においては、資産売却益等で7億円のプラスに働いた前年に対し、当年度は新型コロナによる休業補償等で3億円の引き下げ要因となり、10億円の減益となりました。

その結果、営業利益は、前年同期比348億円減益の85億円となりました。

要約連結損益計算書

HITACHI

Reliable solutions

- 販売費・管理費は766億円と前年同期比△120億円の低減。
- 金融収益及び費用は△38億円と前年同期比4億円の改善。

(単位：億円)

	20年度 第2Q累計		19年度 第2Q累計		前年同期比	
					金額	増減率
売上収益		3,609		4,806	△1,197	△25%
売上原価	(75.8%)	2,734	(72.2%)	3,470	△736	△21%
販売費・管理費	(21.2%)	766	(18.4%)	886	△120	△14%
調整後営業利益 *1	(3.0%)	109	(9.4%)	450	△340	△76%
その他の収益及び費用		△24		△17	△7	44%
営業利益	(2.4%)	85	(9.0%)	433	△348	△80%
金融収益及び費用		△38		△42	4	△9%
持分法投資損益		1		20	△20	△97%
税引前四半期利益	(1.3%)	48	(8.6%)	411	△364	△88%
法人所得税費用		26		127	△101	△79%
四半期利益	(0.6%)	22	(5.9%)	284	△263	△92%
親会社株主に帰属する 四半期利益	(0.1%)	2	(5.2%)	252	△250	△99%

*1 [調整後営業利益]は、連結損益計算書に表示している営業利益からその他の収益及びその他の費用を除いた日立グループ統一の利益指標です。

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2020. All rights reserved. 22

金融収益及び費用は、主として支払利息の減により、前年同期比4億円改善となりました。

一方、持分法損益は、前年同期比20億円の減少でした。

新型コロナ禍にて持分法各社の業績が悪化、特に米州の会社が大幅に悪化したことが原因です。

親会社株主に帰属する当期利益は、前年同期比99%減の2億円となりました。

当期においては新型コロナ影響による需要減に対処すべく、生産調整を行ったことから、日立建機単体の課税所得が赤字となり、税効果会計のメリットが得られずに連結での法人税負担がかさんだこと、加えて非支配持分損益も流出の割合が大きかったことが影響しました。

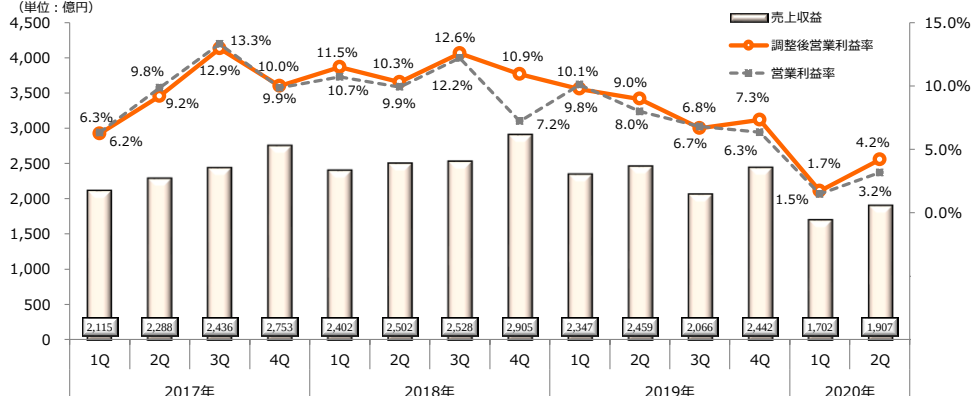
要約連結 四半期別売上収益・営業利益（率）

HITACHI

Reliable solutions

	2017年				2018年				2019年				2020年	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
売上収益	2,115	2,288	2,436	2,753	2,402	2,502	2,528	2,905	2,347	2,459	2,066	2,442	1,702	1,907
調整後営業利益	132	210	315	275	276	258	318	317	229	221	138	179	29	80
営業利益	134	225	324	271	257	248	308	210	237	196	141	155	25	60

(単位：億円)



四半期別為替レート	2017年				2018年				2019年				2020年	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
アメリカドル	111.1	111.0	113.0	108.3	109.1	111.5	112.9	110.2	109.9	107.4	108.8	108.9	107.6	106.2
ユーロ	122.2	130.4	133.0	133.2	130.1	129.6	128.8	125.2	123.5	119.3	120.3	120.1	118.5	124.1
中国元	16.2	16.6	17.1	17.1	17.1	16.4	16.3	16.3	16.1	15.3	15.5	15.6	15.2	15.4
オーストラリアドル	83.4	87.6	86.8	85.3	82.6	81.5	81.1	78.5	76.9	73.6	74.3	71.8	70.7	75.9

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2020. All rights reserved. 23

一番右側の20年度 第2四半期をご覧下さい。

当第2四半期の売上収益は1,907億円となり、前年同期 2,459億円に対して552億円的大幅な減収となりましたが、第1四半期と比較しては205億円の増収となりました。

また、調整後営業利益率は、折れ線グラフに示した通りに4.2%となりました。

要約連結財政状態計算書

HITACHI

Reliable solutions

当四半期末は、営業債権△386億円や棚卸資産△46億円圧縮し、総資産は前年度末より△260億円の圧縮。

(単位：億円)

	(A) 20年2Q	(B) 19年度末	(C) 19年2Q	(A)-(B) 増減		(D) 20年2Q	(E) 19年度末	(F) 19年2Q	(D)-(E) 増減
現金及び現金同等物	651	622	583	29	営業債務及びその他債務合計	1,618	1,887	2,101	△269
営業債権	1,739	2,125	2,187	△386	社債及び借入金	3,373	3,389	3,410	△17
棚卸資産	2,966	3,012	3,283	△46	負債の部合計	6,112	6,425	6,645	△313
流動資産計	5,704	6,128	6,469	△424	(親会社所有者帰属持分比率)	(41.9%)	(40.6%)	(40.0%)	(1.4%)
非流動資産合計	5,712	5,548	5,479	164	資本の部合計	5,303	5,251	5,303	52
資産の部合計	11,415	11,676	11,948	△260	負債・資本の部合計	11,415	11,676	11,948	△260
非流動を含めた営業債権	2,107	2,521	2,612	△414					
棚卸資産 内訳					有利子負債計	(29.5%) 3,373	(29.0%) 3,389	(28.5%) 3,410	(0.5%) △17
本体	756	762	932	△7	現金及び現金同等物	651	622	583	29
部品	1,069	1,030	1,049	40	ネット有利子	(23.8%) 2,722	(23.7%) 2,768	(23.7%) 2,827	(0.1%) △46
その他	1,141	1,220	1,303	△79	負債				
棚卸資産計	2,966	3,012	3,283	△46	ネットD/Eレシオ	0.57	0.58	0.59	△0.02
手持日数 (分母は売上収益)				(単位：日)					
営業債権 (非流動含む)	95	99	93	△4					
棚卸資産	133	118	117	15					
営業債務	38	43	45	△5					
正味運転資金	187	171	163	16					

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2020. All rights reserved. 24

対前年度末20年3月比較では、非流動を含めた営業債権が2,107億円と、414億円 圧縮しました。

棚卸資産も、2,966億円と3,000億を下回り、前年度末よりも46億円 縮減しました。

結果、総資産は11,415億円と、前年度末よりも260億円 圧縮しました。

手持日数は、営業債権を前年度末より4日短縮の95日に縮減しましたが、一方で棚卸資産は、15日延伸の133日となりました。

この結果、正味運転資金手持日数は前年度末よりも16日延伸した187日となりました。

右側の有利子負債計は前年度末よりも17億円縮減した3,373億円となりましたが、一方で現預金を29億円積みましたこともあり、ネット有利子負債は46億円 縮減の2,722億円となりました。

資本合計は5,303億円で、親会社所有者 持分比率は41.9%、ネットDEレシオは0.57となりました。

連結キャッシュ・フロー

HITACHI

Reliable solutions

- 営業キャッシュ・フローは、運転資本の改善により前年同期比475億円増の378億円のポジティブ。
- フリーキャッシュフローも前年同期比500億円増の208億円のポジティブ。

(単位：億円)

	20年度 第2Q累計	19年度 第2Q累計	前年同期比 増減額
四半期利益	22	284	△ 263
減価償却費	267	246	△ 233
売掛金及び受取手形の増減	473	72	400
棚卸資産の増減	289	△ 344	△ 176
買掛金及び支払手形の増減	△ 298	△ 241	△ 57
その他	△ 179	△ 253	74
営業活動に関するキャッシュ・フロー	378	△ 97	475
営業キャッシュ・フロー・マージン率	10.5%	△ 2.0%	12.5%
投資活動に関するキャッシュ・フロー	△ 170	△ 195	25
フリー・キャッシュ・フロー	208	△ 292	500
財務活動に関するキャッシュ・フロー	△ 187	228	△ 415

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2020. All rights reserved. 25

当第2四半期累計期間の営業キャッシュフローは、378億円のポジティブとなり、前年同期比で475億円の改善となりました。

また、投資キャッシュフローも 前年同期比25億円減の170億円の支出としたことから、フリーキャッシュフローは、同500億円改善の208億円の収入となりました。

要約連結損益計算書(予想)

HITACHI

Reliable solutions

20年度連結売上収益はCOVID-19影響による市況の不透明感や予想為替レート円高影響
△163億円により、17%の減収、調整後営業利益は48%減益を見込む。

(単位：億円)

	20年度 予想			19年度 実績	前年比	
					金額	増減率
売上収益	7,700			9,313	△ 1,613	△ 17%
	(5.2%)			(8.2%)	(△3.0%)	
調整後営業利益	400			766	△ 366	△ 48%
	(4.7%)			(7.8%)	(△3.1%)	
営業利益	360			728	△ 368	△ 51%
	(4.4%)			(7.2%)	(△2.8%)	
税引前当期利益	340			671	△ 331	△ 49%
	(2.6%)			(4.4%)	(△1.8%)	
親会社株主に帰属する当期利益	200			412	△ 212	△ 51%
EBIT	376			716	△ 340	
通 貨	1Q-2Q 実績	3Q-4Q 予想	年度 予想	19年度 実績	前年比	為替感応度は 参考資料1を ご参照ください
アメリカドル	107.0	105.0	105.8	108.7	△ 2.9	
ユーロ	121.8	120.0	120.7	120.8	△ 0.1	
中国元	15.2	15.0	15.1	15.7	△ 0.5	
オーストラリアドル	73.3	72.0	72.6	74.1	△ 1.5	
1株当たり配当金 *1	未定			60円	-	

*1 [1株当たり配当金]は、連結業績に運動した剰余金の配当を原則として、中間と期末の2回に分けて同一年度に2度実施する方針であり、連結配当性向30%程度、もしくはそれ以上をめざします。

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2020. All rights reserved. 26

20年度の需要環境、並びに上半期の実績や、世界の先行きの経済状況、為替動向に鑑み、現時点の今年度業績予想は、前回予想を据え置きます。

具体的には、『要約連結損益計算書(予想)』の通りに、前回7月公表値の売上収益7,700億円、調整後営業利益400億円、親会社株主に帰属する当期利益200億円を据え置きます。

第3四半期以降の予想為替レートも変更しておりません。

P.31に、参考資料1.として、第3四半期以降の売上収益と調整後営業利益に影響する為替感応度も掲載しましたので、ご参考願います。

要約地域別売上収益（予想）

HITACHI

Reliable solutions

20年度連結売上収益は、COVID-19影響及び予想為替レートの円高影響△163億円により、前年比1,613億円の減収を見込む。

(単位：億円)

	20年度 予想		19年度 実績		前年比	
					金額	増減率
日本	1,963	25%	2,056	22%	△93	△5%
アジア	517	7%	859	9%	△343	△40%
インド	346	4%	507	5%	△162	△32%
オセアニア	1,407	18%	1,460	16%	△52	△4%
欧州	770	10%	1,036	11%	△266	△26%
北米	1,074	14%	1,734	19%	△660	△38%
中南米	116	2%	129	1%	△13	△10%
ロシアCIS	276	4%	326	4%	△51	△16%
中東	147	2%	76	1%	72	95%
アフリカ	322	4%	380	4%	△58	△15%
中国	762	10%	750	8%	12	2%
合計	7,700	100%	9,313	100%	△1,613	△17%
海外売上収益比率	75%		78%			

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2020. All rights reserved.

27

20年度売上収益について、前回予想7,700億円を据え置きとする旨、ご説明しましたが、その地域別の予想となります。

中東、中国については、前年比で増収を見込む一方、アジア、インド、欧州、北米では、為替円高影響を含めて、前年比20%以上の大幅な減収を予想しています。

マイニング売上収益推移(予想)

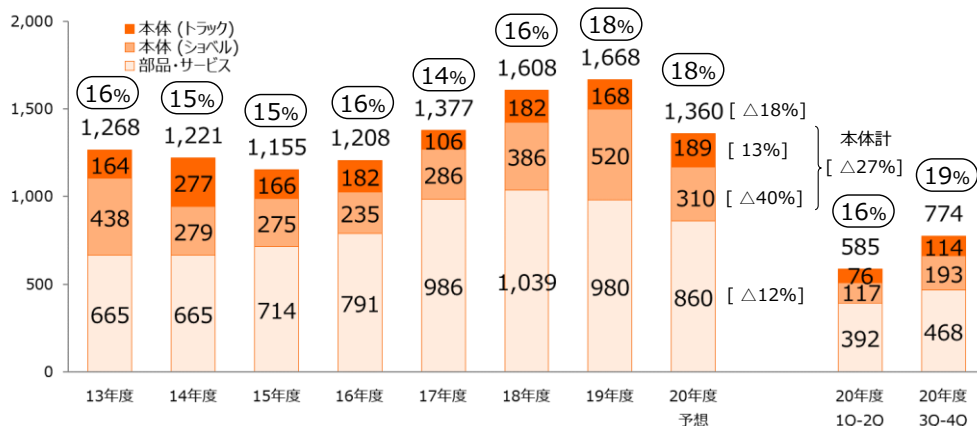
HITACHI

Reliable solutions

20年度は、予想為替レートの円高影響△52億円もあり、前年比18%減収の1,360億円を見込む。

(単位：億円)

(注) (％) = 全社売上収益に占める比率
[％] = 前年比 伸び率



© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2020. All rights reserved. 28

20年度のマイニング売上収益予想は、前年比18%減収の1,360億円と、前回7月公表値を下方修正致します。

マイニング機械本体はトラックとショベル合計で、前年比27%の減収を見込む他、マイニング向け部品サービスも予想為替レートの円高影響を含めて、前年比12%減収の予想です。

尚、P.32に参考資料2.として地域別の『マイニング売上収益内訳』を掲載していますので、ご参考願います。

バリューチェーン*1 売上収益推移(予想)

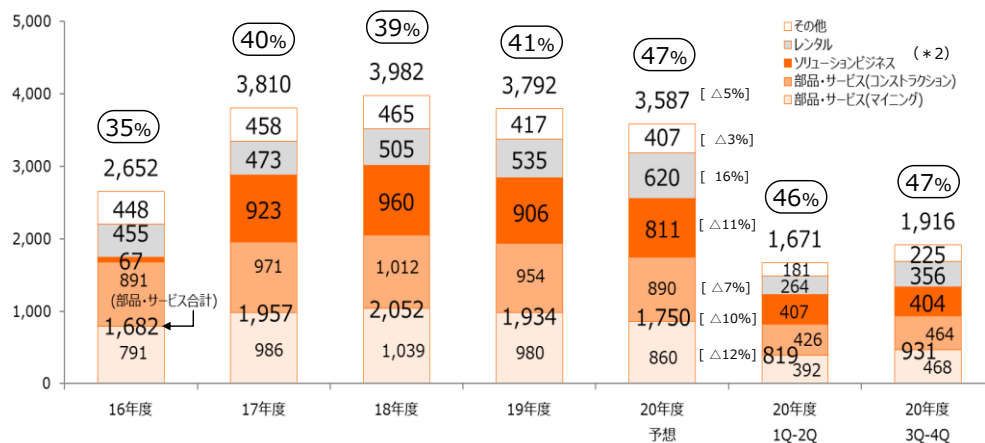
HITACHI

Reliable solutions

20年度は、レンタル、中古車等の売上増あるも、部品サービスのCOVID-19影響による減収及び予想為替レートの高影響△75億円により、合計では前年比5%減収を見込む。

(単位：億円)

(注) (％) = 全社売上収益に占める比率
[％] = 前年比 伸び率



* 1 バリューチェーン：新車販売以外の事業である部品・サービス、ソリューションビジネス、レンタル等の事業合計

* 2 ソリューションビジネス：建設機械ビジネスセグメントに含まれないマイニング設備及び機械のアフターセールスにおける部品開発、製造、販売及びサービスソリューションの提供

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2020. All rights reserved. 29

20年度のバリューチェーン売上収益予想は、前年比5%減収の3,587億円と、前回7月公表値を25億円下方修正致します。

今回見通しでは、部品サービスを前年比10%減収の1,750億円、レンタルも同16%増収の620億円といずれも前回公表値を据え置く他、ソリューションビジネスにおいては同11%減収の811億円と前回公表値を51億円 上方修正します。

他方、最上段の『その他』、主に中古販売やソフト事業、ファイナンス等が含まれますが、こちらを前年比3%減収の407億円に下方修正しました。

尚、売上構成比は、前年比6ポイント増加の47%を据え置きます。

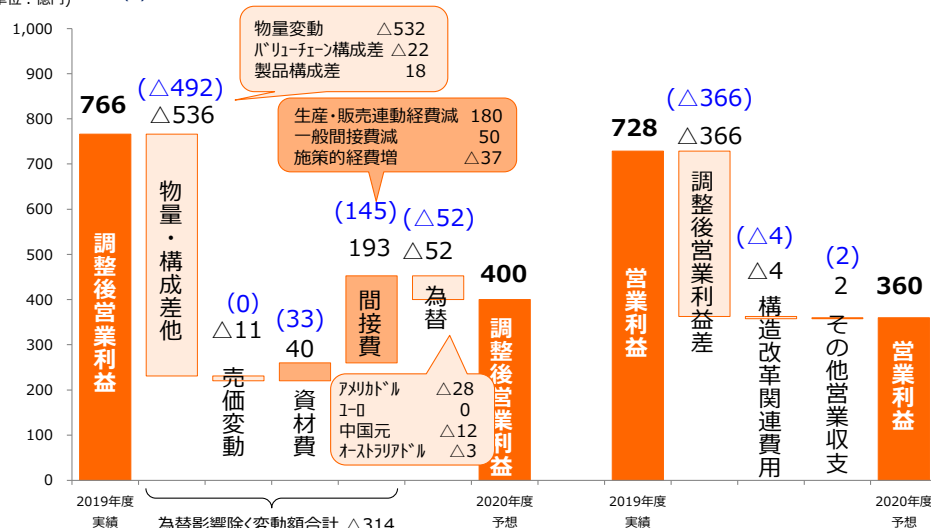
連結損益変動要因(予想)

HITACHI

Reliable solutions

20年度の調整後営業利益は、COVID-19影響による物量減や予想為替レートの円高影響により、間接費低減や資材費低減はあるも、前年比△366億円の減益を見込む。

(単位：億円) 注：()内は20年7月公表値



© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2020. All rights reserved. 30

20年度調整後営業利益が 前年同期比で366億円減少した400億円となる要因をご説明します。

この図に示しました通りに、新型コロナ影響による物量の減少、構成差による影響536億円が大きく、加えて売価変動11億円、予想為替の円高影響52億円も減益要因となりますが、一方で資材費の低減40億円、間接費の大幅縮減193億円で補うことで、調整後営業利益400億円を据え置きます。

営業利益は、調整後営業利益の減益にて、前年比で368億円の減益となる360億円の予想を据え置きます。

参考資料 1 : 為替レート及び為替感応度

HITACHI

Reliable solutions

20年度3Q-4Q予想為替レートは、通貨毎に予想変動レンジ内で合理的に設定。

(単位：億円)

通貨	為替レート				感応度(3Q-4Q累)		
	20年度			19年度 実績	基 準	売上収益	調整後 営業利益
	1Q-2Q 実績	3Q-4Q 予想	年度 予想				
アメリカドル	107.0	105.0	105.8	108.7	1円円安になった場合	8	6
ユーロ	121.8	120.0	120.7	120.8	1円円安になった場合	3	3
中国元	15.2	15.0	15.1	15.7	0.1円円安になった場合	3	1
オーストラリアドル	73.3	72.0	72.6	74.1	1円円安になった場合	10	1

参考資料 2 : マイニング売上収益内訳

HITACHI

Reliable solutions

(単位 : 億円)

		19年度実績			20年度見通し			差額		
		1-2Q累計	3-4Q累計	年度	1-2Q累計	3-4Q累計	年度	1-2Q累計	3-4Q累計	年度
米州	ショベル	67	115	182	49	67	116	△ 19	△ 48	△ 67
	トラック	22	17	39	6	18	24	△ 16	2	△ 14
	計	90	132	221	54	86	140	△ 35	△ 46	△ 81
欧阿中東	ショベル	118	112	230	71	127	197	△ 47	15	△ 32
	トラック	61	68	129	57	98	155	△ 4	30	26
	計	180	179	359	128	225	353	△ 52	45	△ 6
アジア・大洋州	ショベル	401	333	734	239	298	536	△ 162	△ 35	△ 198
	トラック	127	202	329	154	141	295	27	△ 61	△ 34
	計	528	535	1,063	393	439	832	△ 135	△ 96	△ 232
中国	ショベル	4	2	6	3	8	11	△ 1	6	5
	トラック	0	1	1	0	1	1	△ 0	0	△ 0
	計	4	3	8	3	9	12	△ 1	6	5
日本	ショベル	8	8	17	4	16	20	△ 4	8	3
	トラック	0	0	0	3	0	3	3	△ 0	3
	計	8	8	17	6	16	23	△ 2	8	6
合計	ショベル	599	570	1,169	366	516	881	△ 234	△ 54	△ 288
	トラック	211	287	498	220	259	479	9	△ 29	△ 20
	計	810	857	1,668	585	774	1,360	△ 225	△ 83	△ 308

参考資料 3 : セグメント情報					HITACHI
					Reliable solutions
下記ソリューションビジネスの調整後営業利益は、P P A (資産再評価)償却費が含まれております。 20年度第2四半期実績には5億円、20年度予想には11億円がそれぞれ含まれております。					
(単位 : 億円)					
20年度 第2Q累計	報告セグメント		調整額 *1	連結財務諸表 計上額	
	建設機械 ビジネス	ソリューション ビジネス			
売上収益	3,202	421	△ 14	3,609	
調整後営業利益	2.2% 71	9.0% 38	-	3.0%	109
(単位 : 億円)					
20年度 予想	報告セグメント		調整額 *1	連結財務諸表 計上額	
	建設機械 ビジネス	ソリューション ビジネス			
売上収益	6,889	811	0	7,700	
調整後営業利益	4.9% 336	7.9% 64	-	5.2%	400
*1 [調整額]は、セグメント間取引消去額、及び事業セグメントに帰属しない全社に係る金額です。					
© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2020. All rights reserved. 33					

参考資料4：連結設備投資、減価償却費、研究開発費の実績及び見通し

HITACHI

Reliable solutions

20年度設備投資は、国内外工場の再編やレンタル事業の拡充などに特化。

1.設備投資（工事ベース）

（単位：億円）

	17年度	18年度	19年度	20年度 1-2Q累計	20年度 3-4Q累計	20年度
	実績	実績	実績	実績	見通し	見通し
設備投資	187	304	472	165	442	606
貸用営業資産	231	272	369	198	251	449
合計	418	576	841	362	693	1,055

2.減価償却費（有形・無形固定資産）

（単位：億円）

	17年度	18年度	19年度	20年度 1-2Q累計	20年度 3-4Q累計	20年度
	実績	実績	実績	実績	見通し	見通し
設備投資	275	268	342	170	170	340
貸用営業資産	103	101	120	76	81	157
合計	378	370	461	246	251	497

3.研究開発費

（単位：億円）

	17年度	18年度	19年度	20年度 1-2Q累計	20年度 3-4Q累計	20年度
	実績	実績	実績	実績	見通し	見通し
グループ合計	246	248	237	109	107	216

3. 中期経営戦略の方向性について

2020～2022年度

執行役 社長 兼CEO
平野 耕太郎

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2020. All rights reserved. 35

最後に、平野でございます。

5月の年度末決算の際に、中期経営計画の方向性についてお話をさせていただきましたが、本日はその続編という位置付けで、当社の施策についてご説明いたします。

現在の不透明な環境下において、市場の先行きを適正かつ合理的に算定することが困難だと考えていますので、今年度を初年度とする中期経営計画の施策詳細・数値目標の発表については、今回は引き続き見送りとさせていただきます、もう少し先々が見えてきた時点で公表とさせていただきます。

COVID-19による変化

先々の不透明感から

- 保有、レンタル、中古車等、お客さまは多様な選択肢を指向
- 現場の「三密(密閉・密集・密接)」回避のための働き方の変化、リモートへのニーズの高まり・加速化
- 現場の安全性向上・生産性向上・ライフサイクルコスト低減に対する ニーズがさらに高まる

当社の取り組み

- レンタル・中古車など選択肢の拡充推進
- リモートニーズに応えるICT建機、自律運転、遠隔操作建機の開発・提供の加速推進
- 部品・サービスメニュー (ConSite®) 拡充、部品再生事業の拡大を通じ、建設現場のマシンダウンを回避し、稼働率を向上
マイニング事業において、デジタル技術を組み合わせ高度化を推進

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2020. All rights reserved. 36

昨年度までの中期経営計画期間中、度々お客さまの現場や意識が大きく変わってきていると説明をしてきました。

それが今回の新型コロナにより、さらに足元、その変化が急速に進んでいると感じています。

現場の安全性の向上、生産性の向上、燃料費やメンテナンスコスト等ライフサイクルコストの低減はお客さまの重要課題で、これらの課題解決が新型コロナにより、今まで以上に求められています。

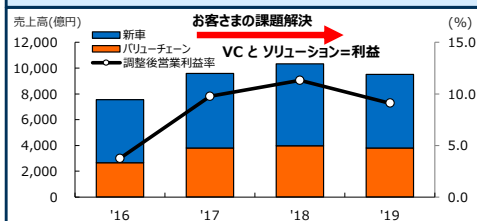
我々が前中期計画で進めてきた、バリューチェーンの拡大は、まさにこのお客さまの課題解決をめざしたものであり、更なる推進が求められています。

CONNECT TOGETHER 2019

バリューチェーンの深化

- 部品・サービス (ConSite®)
- Bradken/H-E Parts買収
- 米英：レンタル開始
- 認定中古車事業の展開

グローバル体制再構築 海外拠点の効率化

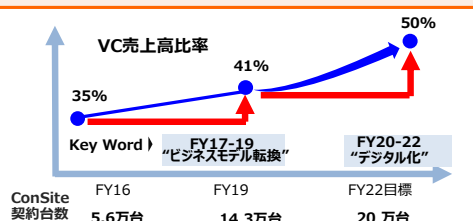


Realizing Tomorrow's Opportunities 2022

バリューチェーン+デジタルソリューション深化

- 部品・サービス (ConSite® + 部品再生 + Bradken/H-E Parts)
- デジタルマイニング
- レンタル+中古車→グローバル展開

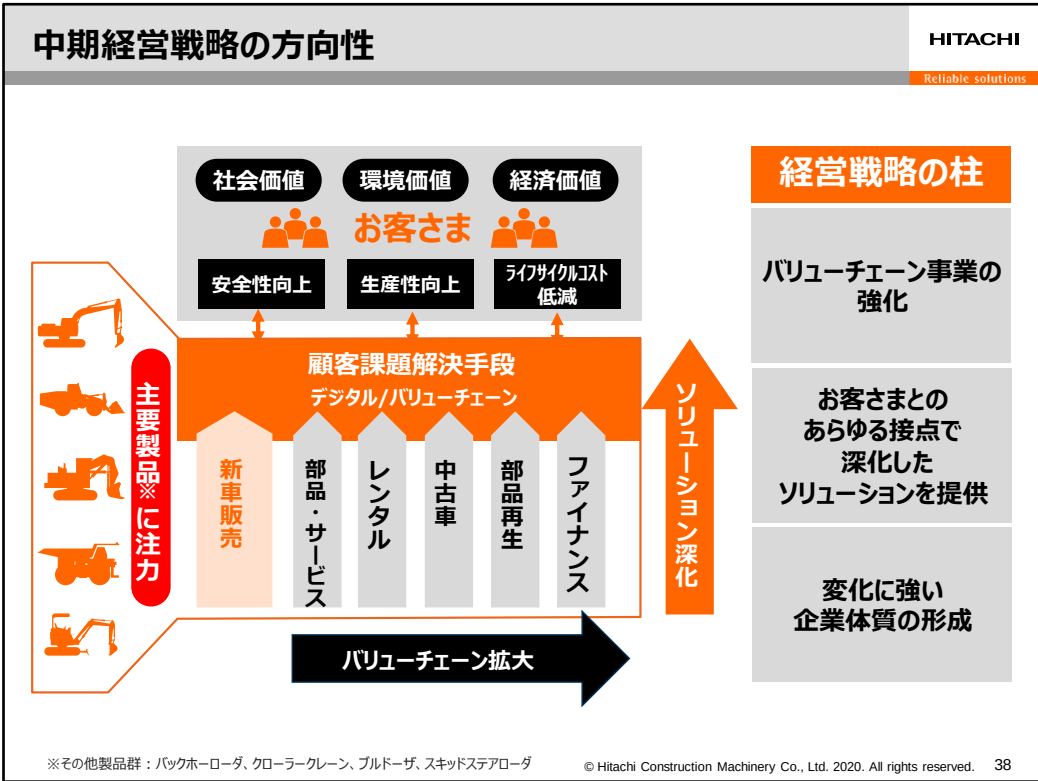
開発マーケティング・生産の効率化 グローバル連携



© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2020. All rights reserved. 37

当社は、前中計において、新車販売中心のビジネスモデルから、経営資源を既存の主要製品のビジネスに集中するだけでなく、全世界で稼働する機械をターゲットとした「バリューチェーン事業」へとビジネスモデルを変換してきました。また、収益構造の安定化を図り、同時に日本を含む世界各地の拠点にて事業の再編を実行し、経営の効率化に努めてきました。

2022年度を最終年度とする今回の中期計画では、前中計にて注力したバリューチェーン事業を、デジタル技術を活用することにより、お客さまとのあらゆる接点において提供するソリューションを深化させ、売上構成比50%をめざしてまいります。



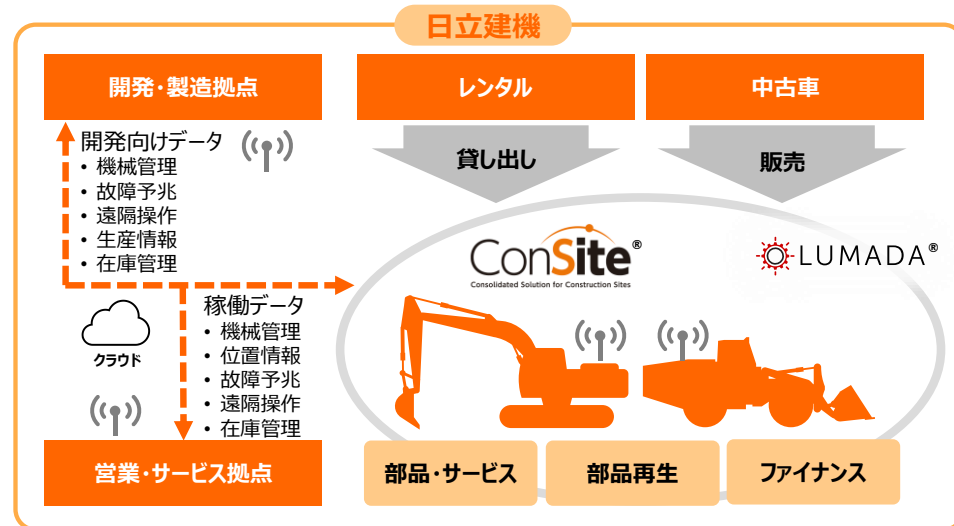
今年度から取り組んでいる中期経営戦略も、基本はこれまでの大きな方向に変化はありません。

経営戦略の柱は、「バリューチェーン事業の強化」、「お客さまとあらゆる接点で深化したソリューションを提供すること」、そして「変化に柔軟に対応できる企業体質の形成」、の3つです。

次のスライドからは、右側にあります「経営戦略の柱」それぞれについて、施策をご説明します。

稼働データを把握・活用し最良の状態の機械を提供

ライフサイクルの全てで稼働・機械情報を把握し開発・製造・サービスの全てに利活用
メーカー保証の高品質の機械を供給し、故障予兆などで顧客課題の解決に貢献



© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2020. All rights reserved. 39

1つ目に、「バリューチェーン事業の強化」です。今日はバリューチェーンの中のレンタルと中古車に関してご説明します。

建設機械は、排ガス対応機、ICT・情報建機やバッテリー対応機など、さまざまな機械が開発されています。これらの機械を現場に合わせて全て保有するのはお客さまにとっても負担で、現場に最適な機械をレンタルするという流れが強くなっています。

しかしお客さまも全ての機械をレンタルするわけではなく、主要な機械は保有し、個々の現場に必要な機械はレンタルすることになります。

当社のような建設機械メーカーは、最新の建機を使ってグローバルでレンタル事業を行うことができ、またレンタル機の稼働情報や故障の状況を開発や生産に活用することができます。またそれらの情報を活用した良質なメンテナンスを施した高品質のレンタル機械を供給し、故障予兆診断も提供できるレンタル事業を世界で展開してまいります。

世界各地でレンタル事業を拡大することによって、メーカー保証付き中古車の取り扱い量を増やし、中古車再販後も保守メンテナンスを請け負っていききたいという狙いもあります。

このように、当社がメーカーとしてレンタル事業を展開することは、お客さまの価値にも繋がると考えています。

日立建機の思い描く
「人・機械・施工環境」の情報共有による安全で生産性の高い現場



自律型建設機械向けシステムプラットフォーム ZCORE® を開発

- ・ 機能拡張とカスタマイズが容易、ユーザーニーズに迅速に対応
- ・ 製品種類や大きさを選ばず、各種の当社建設機械へ適用が可能

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2020. All rights reserved. 40

2つ目に、「深化したソリューションの提供」です。

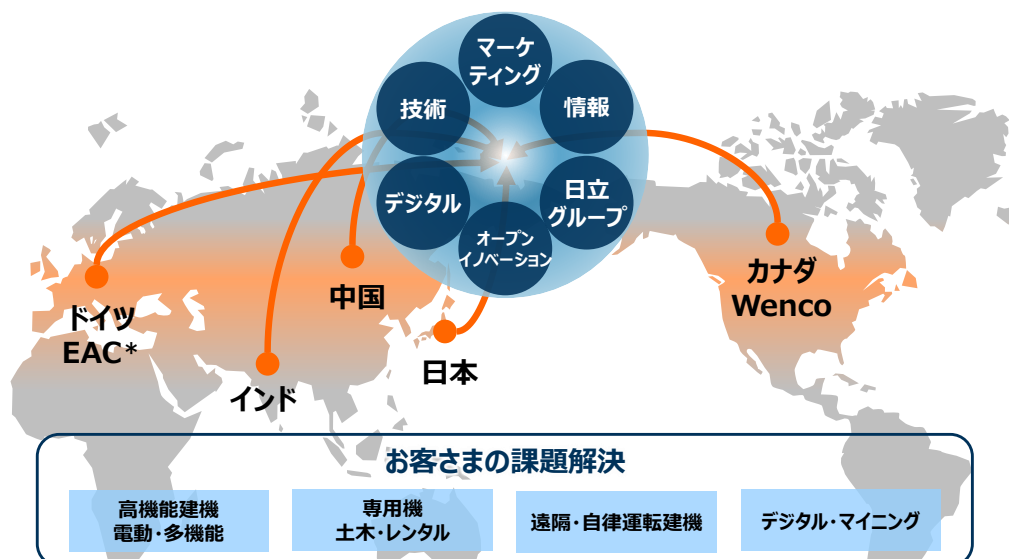
日立建機は、人と機械が協調して働く現場で、「人・機械・施工環境」の情報共有によって、安全性と高い生産性を実現したいと考えており、将来は、協調安全の中で自律運転する「協調型建設機械」が必要とされたいと考えています。

建設業においては、生産労働人口の減少、熟練技能者の高齢化を背景として、省人化による生産性の向上が課題となっています。

その解決策のひとつとして、自律運転する建設機械の開発に期待が寄せられていますが、自律型建設機械を実現する上で、周囲で働く人々の安全性も確保する必要があります。

今年8月に発表したプラットフォームZCORE（ズィーコア）は、現場でオペレータが作業時に行う「認識・判断・実行」を機械が行えるようにしていくもので、当社の各種建設機械の将来の自律化に向けて準備を整えていきます。

マーケティング・開発・情報・デジタルのグローバル一体連携体制の推進



* EAC : European Application Center

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2020. All rights reserved. 41

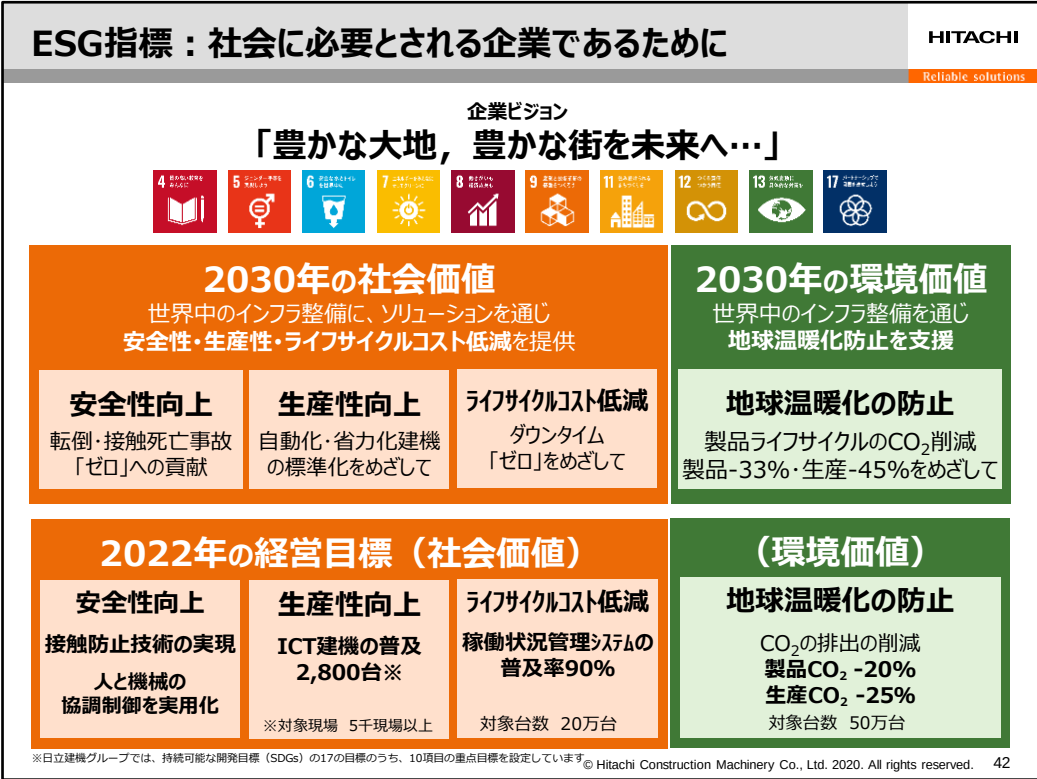
次に、「変化に強い企業体質の形成」として、開発力強化に関する施策をご説明します。

当社が推進するバリューチェーン事業の展開は、製品やソリューションが優れていることが大前提となります。

製品は、国や地域、業種によって様々な要求があります。そこで、当社では、製品開発力を横断的に強めること、またその優れた製品をバリューチェーンにつなげ、お客さまにソリューションを提供するために、情報の緊密な連携やデジタルなどの分野における外部との連携強化が重要だと考えています。

お客さまの課題解決につながる機械やサービスの開発へ迅速に繋げるために、世界各地で刻々と変化する市場ニーズを把握し、日本と各地で情報を共有し、マーケティング・開発設計・情報連携・デジタル化促進などを一体運営する体制を推進していきます。

このように開発力を強化することで、変化に柔軟に対応できる企業体質の形成をめざしてまいります。



最後に、社会に必要とされる企業であるために推進している内容をご紹介します。

「豊かな大地、豊かな街を未来へ…」という企業ビジョンそのものが示す通り、当社の事業は、社会や環境への貢献に直結しています。

当社の進めている安全性向上、生産性向上、ライフサイクルコスト低減についての課題解決は、まさしく社会価値の追求であり、2030年に向けて各々ここに示すような目標を定めています。

今年度は初のESG説明会を開催予定ですので、その際に当社のESGに関する取組みの詳細をご説明させていただきます。

新型コロナの影響で引き続き厳しい状況が続いていますが、その様な中でも、しっかりと先を見据えて事業運営を進めてまいりますので、今後ともご指導・ご支援を宜しくお願い申し上げます。

ありがとうございました。

日立建機グループでは、持続可能な開発目標 (SDGs) の17の目標のうち、10項目の重点目標を設定しています。

当資料内のトピックスはこの区分に該当するアイコンを表記し、紹介しています。



【見通しに関する注記事項】

本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する予想、計画、見通し等は、現在入手可能な情報に基づき当社が合理的と判断したものです。実際の業績は、様々な要因の変化により、記載の予想、計画、見通しとは大きく異なることがあり得ます。そのような要因としては、主要市場の経済状況および製品需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種規制ならびに会計基準・慣行等の変更などが含まれます。

END**お問い合わせ** **日立建機株式会社**

ブランド・コミュニケーション本部